

# えりも町内における防風土手について ～第1報 土手の分布と家屋との位置関係

中岡利泰<sup>1)</sup>・白川由香里<sup>2)</sup>

## はじめに

えりも町は強風地域として有名であり、強風対策として、冬季間に設置する板垣(板塀)、ブロック塀があるが、住宅建築時に風上側に土手を造成する場合がある。近年、住宅建材の高質化により、土手造成による強風対策の必然性が薄らいできている。

著者らは、えりも町以外の地域で、防風土手を確認することがないことから、この土手がえりも町に特徴的なものであることを前提に調査をおこなった。

今回、防風土手の分布、および家屋を中心とした土手の設置位置について調査検討をおこなった。

なお、本調査は平成16年度博物館学実習の一貫として実施した。

## 調査方法

事前調査により土手は、えりも町西海岸に分布していることから、えりも町字近浦から字えりも岬までの地域において調査を実施した。土手を設置する家屋を地図上に記録し、家屋玄関を中心として土手の設置位置について方位磁石を用いて観測し記録した。

今回の調査は自然傾斜よりも高く土を積み、家屋の周囲の一部を囲む構造物が設置されている家屋のみを対象とした。斜面を切り開いたくぼ地に家屋を建設している場合は、調査対象外とした。

家屋および土手の所有者へ、土手の構築年、目的、風向について可能な範囲で聞き込み調査をおこなった。

調査期間は平成16年8月23日、26～28日の4日間であった。

## 結果および考察

### 1. 土手の分布について

防風土手の分布を図1. に示した。字近浦には防風土手は確認できなかった。字笛舞から字大和ノツナイ地区(以下、A地区)に10ヶ所、字本町地区は0ヶ所、字歌別地区から菊水地区(以下、B地区)に6ヶ所、坂岸地区から油駒地区(以下、C地区)に19ヶ所の合計35ヶ所を確認することができた。

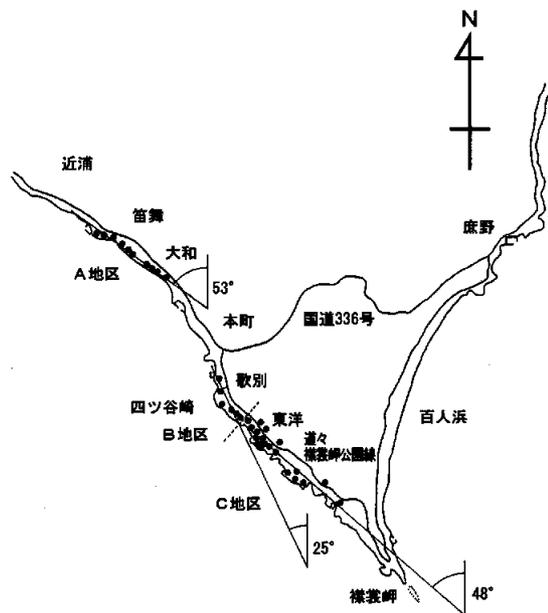


図1. えりも町内における土手の分布(2004年調査)

土手は国道366号線または道々襟裳公園線より海岸に一番近い海岸段丘(小越層)(地質研究所, 1956a. b.)の縁に主に位置していた。これは、コンブ漁を主とする漁家が、コンブ漁のため前浜近くに家屋を建築するためと考えられる。

<sup>1)</sup> えりも町郷土資料館 〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜207番地

<sup>2)</sup> 北海道文教大学外国語学部英米語学科4年

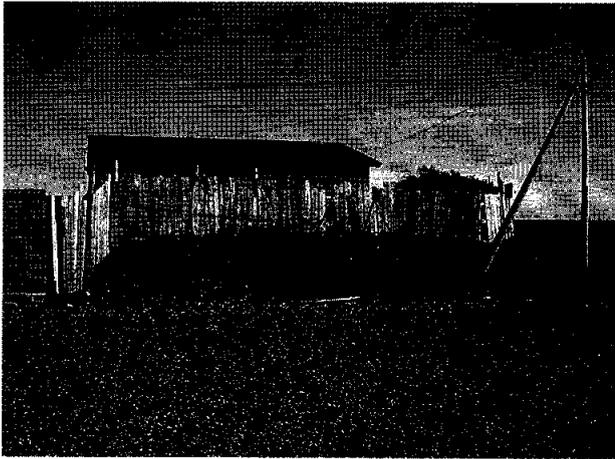


図2. えりも町字大和地区の土手  
海岸段丘の縁に位置し、2階建ての小屋に風が当たらないよう土手が設置され、その上に防風垣が作られている例。



図3. えりも町字歌別の土手  
海岸段丘の縁に位置し、斜面を切り開き、1階建ての家屋の軒先の高さまで土手が積まれている。



図4. えりも町字東洋の土手  
海岸段丘の中央部に位置し、斜面を切り開いて設置された典型的な例。

## 2. 土手と家屋との位置関係

家屋を中心とした土手の位置を八方位に分類し記録した。土手は家屋を中心に、家屋の一つの側（八方位では2方向）にだけ設置したものから、二方向（同3～4方向）、三方向（同5～6方向）と家屋を囲むように設置されていた。特徴的な家屋と土手を図2. 図3. 図4. に示した。

海岸段丘の斜面を切り開き家屋を建築した場合、家屋の背面または側面が斜面切り開き面（以後、法面とする）になり、家屋正面を除く残りの二方向または一方向に土手が設置されていた。今回は、家屋を中心とした土手の位置を、八方位に分け出現頻度で検討し、その結果を表1. に示した。

家屋を中心とした土手の出現頻度（以下、出現頻度）は、A地区、B地区、C地区とも、北北西が83～100%ともっとも高く、西北西および北北東が50～80%と次に高かった。西南西および東北東は16～50%の出現頻度であった。また、南南西、東南東および南南東は0～17%と出現頻度は低かった。

これは3地区とも冬季の季節風である西～北風を緩和するために、主に西北西から北北東にかけて防風土手を設置していることを示している。

3地区とも西北西から北北東にかけての出現頻度が高かったが、A地区およびC地区は、B地区よりもいっそう西北西から北北東に集中していた。土手の数は6件と少ないが、B地区は、南南西、西南西、東北東、東南東に土手が設置されており、A地区およびB地区と比較して、異なる傾向が認められた。

今回調査した土手を設置する家屋の正面（玄関）の向きは、A地区は南東および南～南南東、B地区は南および南西、C地区は南東、南および南に向いており、B地区では、家屋の正面が南東に向いた事例がないのが特徴であった。また、家屋正面に土手を設置している例はなかった。

土手を設置している家屋をおおよその直線でつなぐと、北からの方位角度が、B地区は335°である

が、A地区は307°、C地区は312°であり、B地区の配列はA地区およびC地区の配列より西にかたよっていた(図. 1)。これはB地区東歌別の海岸線(四谷崎)が、A地区およびC地区の海岸線よりも南西方向の海にせり出していることと一致した。

一般に漁家は海岸線に建築され、その正面(玄関)は海に向いていることが多いが、B地区の家屋は、海岸線に沿って建築される場合でも、海岸線に正面を向けて家屋を建設するのではなく、正面が南から南西に向いて建設されている。このためB地区の土手の位置が、A地区およびC地区と比較して、南南西、西南西、東北東および東南東に位置していると考えられた。

### 3. 土手の設置時代について

土手の所有者ら8名から聞き込み調査をすることができた。その結果、土手は、約20~40年前(1980~1960年頃)に、家屋を新築する際に設置した 경우가多く、一番多かったのは約30年前(1970年頃)に設置したものであった。一番新しい土手は1996年に家屋を新築した際、斜面を切り開きその土を盛って設

置したものであった。

聞き取り調査からは、土手は人手で土を盛ったものではなく、重機を使える時代になって作られたことが判明した。

また、コンブ干場に土手が隣接していると、風がまわりコンブ乾燥に悪影響があることから、土手を撤去した事例を一例確認することができた。

### 4. 風について

風の風向と強さについては、C地区の4件について聞き込み調査ができた。

- 1) 冬と春先に怖い風が吹く。
- 2) 北西からの風が強く吹く、北風も強く吹く。
- 3) どの方向からも風は吹くが、季節風は10月になると西から、春になると東から吹き、これが少し北に入ると強くなる。
- 4) 一番いやな風は南東と西からの風。

4) は、もっとも南東部に位置し、他の土手とは異なり、標高40m程の小高い丘上の東・南・西側が開けている地形にあることから、南東と西の風が強

表1. 家屋を中心とした防風土手の設置方向

地 区	土手の数	家屋を中心とした土手の位置の出現回数とその出現頻度(%)							
		南~南西 (南南西)	南西~西 (西南西)	西~北西 (西北西)	西北~北 (北北西)	北~北東 (北北東)	北東~東 (東北東)	東~東南 (東南東)	東南~南 (南南東)
A 近浦 地区 ~ノツナイ	10件	0 0%	2 20%	8 80%	9 90%	7 70%	5 5%	0 0%	0 0%
B 歌別 地区 ~菊水	6件	1 17%	2 33%	3 50%	5 83%	4 67%	3 50%	1 17%	0 0%
C 歌露 地区 ~油駒	19件	1 5%	3 16%	13 69%	19 100%	14 74%	5 26%	0 0%	0 0%
合計	35件								

\* 出現頻度(%)は、小数点以下第一位を四捨五入した。

出現頻度 100~80%      出現頻度 79~60%      出現頻度 59~40%

く吹きつけることになる。1) 2) 3) の土手は、なだらかな海岸段丘丘陵の西端の崖近くに位置している。聞き込み調査の結果から、土手の設置目的は、冬の北西の風、春の東の風を防ぐためであることが明らかになった。

5. 風の名称などについて

聞き込み調査の際、北村賢一氏（歌別、1943年生まれ）から、風向による風の名称、風に関する言葉、風の特徴の一例について採録することができたので報告する。

1 > 風向による風の名称

風向による風の名称を表2. に示した。南風を「くだり」、それよりも西よりの風を「くだりひかた」、東よりの風を「みなみやませ」という。西風を「にし」、それよりも南よりの風を「ひかた」といい、北よりの風を「にしたまかぜ」という。北から北西の間の風を「たま」といい、北から北東の間の風を「あい」という。

北風（袴腰山から吹いてくる風）は「あい」または「きたかぜ」といい、それよりも東よりの風を「あいしもかぜ」という。北西の風（アポイ岳から吹く風）を「北西まわり」または「たまかぜ」という。東風（オリオンが出てくる、乙女座がでてくる方向から吹く風）を「ひがし」または「十勝もの」（春の終わり5~6月に吹く）という。

南東から北まで方向から吹いてくる風を総じて「やませ」という。

えりも町町勢要覧（1988）には、えりも町における風の名称が紹介されており、今回の聞き込み調査の結果と比較した（表2）。

2 > 風に関する言葉

- 1) たま風になったから、波出ないから、風だけだから1日中沖に出ても大丈夫。（秋ごろ）
- 2) 北西まわりになったら、晩になれば凧る。
- 3) まっすぐあいになった。
- 4) 北になったら斜めに南西に吹き出す。（地形的に風が南西の沖の方向へ吹くこと）

表2. えりも町における風の名称の一例

風向き	北村賢一氏の呼び方 (字歌別、2004年調査)	町勢要覧の標記 (えりも町、1988)
南	くだり	くだり
南南西	くだりひかた	
南西	くだりひかた	くだりひかた
西南西	ひかた	
西	西	西風・西ひかた
西北西	にしたまかぜ	
北西	北西まわり・たまかぜ	あいひかた
北北西	たまかぜ	
北	あい・北かぜ	あい
北北東	あいしもかぜ	
北東	しもかぜ	あいしもかぜ
東北東		
東	ひがし・十勝もの	しもかぜ・やませ
東南東		
南東	みなみやませ	南やませ
南南東	みなみやませ	
南	くだり	くだり

↑  
やませ  
↓

- 5) 北西が吹いていても山の(東側の山)空が晴れていたり、綿雲が2～3あれば、次第に風。これは、低気圧が来る前触れでもある。

### 3 > 風の特徴として

- 1) 東から吹いてくる「十勝もの」は乾燥している。

えりも町町勢要覧(1988)の情報は、取材地および提供者が不明であり、風向による風の名称について、今回の調査結果と正確な比較はできない。今回、歌別地区四谷崎近くに居住し、かつて船頭をしていた北村賢一氏による風の名称には、細やかな区別がなされている。えりも町は太平洋に突出した襟裳岬を中心に東西の海岸に集落があり、風向により海況が各地区によって大きく異なることから、各集落で風の名称に相違があると推測できる。

観天望気などによる天候予測の経験がある高齢漁業者も少なくなってきたことから、えりも町内各地区における風の名称、風に関する言葉などの調査が必要である。

### 引用文献

えりも町 (1988). 「町勢要覧」 p6. pp28.

地質研究所 (1956). 「5 万分の 1 地質図幅説明書・幌泉 (釧路第70号)」

地質研究所 (1956). 「5 万分の 1 地質図幅説明書・襟裳岬 (釧路第72号)」